

町 長	副町長	課 長	主 幹	担 当	合 議

会 長

署名委員

署名委員

第3回 上富良野町国民健康保険運営協議会議事録

1 日 時 自 平成 22 年 2 月 24 日 19 時 00 分

至 平成 22 年 2 月 24 日 20 時 40 分

2 場 所 上富良野町役場 審議室

3 出席者

公 益 代 表 北川 昭雄・五十嵐 順美

保険医・薬剤師代表 渋江 久・矢花 修・石澤 美穂

被 保 険 者 代 表 鎌田 孝徳・杉本 隆一・小松 紀代美

(欠席委員 大柳 房子)

事 務 局 副町長・町民生活課長・健康づくり担当課長・佐川主幹

及川主査・末永主査・大串主事

4 付議議題

- ・ 平成 21 年度国民健康保険特別会計補正予算について
- ・ 平成 22 年度国民健康保険特別会計予算について

副町長挨拶	
副町長	<p>時節柄お忙しい中、ご参集賜り感謝申し上げます。国保事業においては、これまで大きな変動も無く安定した運営の中で決算期を迎えられそうである。此度、国保特別会計予算にかかる現年度補正予算案並びに新年度予算案を3月定例議会提案に向け編成したところであり、内容について委員の皆様からご意見を戴き、今後の議会審議に繋げて参りたい。</p>
会長挨拶	
会長	<p>22年が明け、初めての審議会開催ということで皆様にお集まりいただいた。懸念されていた新型インフルエンザの影響は少なく、流行が報じられてから比較的安定した給付推移であったと聞いている。予算・給付・健診の状況等、事務局から報告していただくがこれらの内容把握に努めて参りたい。</p> <p>今回の運営協議会議事録署名委員について事務局案は。</p>
町民生活課長	矢花委員・小松委員にお願いしたいと思います。
会長	今回の運営委員会の議事録署名委員は矢花委員・小松委員にお願いします。
1 報告事項	
(1) 平成21年度国民健康保険税の状況について	
及川主査	議案P1により説明。
	<p>国保税については現在8回の納期のうち第7期までを経過しているが、資料は1月末日現在の状況としており、第7期納期限は銀行営業日の2月1日に設定したため口座振替による収納分は反映されていない。税収納率は前年同期対比で現年分・滞納繰越分共に若干の上昇が認められ、本年度の最終収納率についても平成20年度並みの数値(現年課税分95.2%、滞納繰越分17.8%)を現状では確保できる見込みにある。</p>
会長	何か質問・意見等ありませんか。
各委員	(特に意見なし)
(2) 平成21年度国民健康保険給付状況について	
及川主査	議案P2～5により説明。
	<p>現在平成21年度として9ヶ月の給付を終えており、残り3ヶ月の給付を残すところとなった。前年度対比で給付費総計はほぼ横這いの状況であるが、被保険者数は60人減少しており、一人あたり給付費に換算すると前年比で3.51%の増となった。</p>

	<p>本年度給付の特徴として、医科入院に係る給付が減少しているのに対し、医科入院外に係る給付が増嵩傾向にある。また、年齢階層別の保険者負担額で分析すると 70 歳以上の高齢者に係る給付が前年度対比で 2 割程度少なく推移しており、今後 3 ヶ月分の給付を残しているが、これまでの月平均額程度でこのまま推移すると昨年を下回る見込みである。</p>
会 長	<p>本年度は外来が増えているということですが。</p>
及川主査	<p>件数対比では 100%というところですが、費用では 5 %程度伸びている状況です。</p>
会 長	<p>療養の給付内訳に「食事療養」「訪問看護」の記載がありますが、この定義は。</p>
及川主査	<p>「食事療養」については入院時において食事代が医療費とは別途にかかりますが、保険者負担が生じていることから入院医療費には含めずに別段計上としております。</p> <p>「訪問看護」についてはその名のとおり、療養中の方が主治医師の指示に基づき訪問看護師等から診察の補助や療養上に必要な世話を在宅で受けた際に保険給付するものです。</p>
会 長	<p>ほかに何か質問・意見等ありませんか。</p>
各委員	<p>(特に意見なし)</p>
	<p>(3) その他 特定健康診査の状況について</p>
健康づくり担当課長	<p>別冊資料により説明。</p>
	<p>本年度の特定健診実施状況は昨年度に引き続き、依然として高い受診水準を維持している。現在の健診受診率は 69.7%であり、1 年間を通して国保に加入している方を対象として計上しているが、医療機関実施分健診データの提供を現在お願いしており、それらを加えると昨年度を上回る受診率となる見込みとなっている。</p>
	<p>昨年度、特定保健指導対象となった方 221 名については健診結果の数値を基に予防度合いによる重症度区分（3 段階）にグループ分けし、個々が特定保健指導を通じて重症度リスクを低下させることを目標とした。それにより、多くの対象者の健診検査項目数値が正常値に移行もしくは近づき、体質改善が図られた結果となった。</p>
	<p>また、国は内臓脂肪症候群の該当者を 5 年間で 10%の減少させることを目標としているが、本町は 20 年度から 21 年度の 2 ヶ年推移で内臓脂肪型肥満（BMI 25 以上）を 14.5%減少させており国の目標値を既に達成している。生活習慣病治療者の対象者数及び給付額を 5 年前の平成 17 年と比較すると、双方共に著しくその数は減少しており、更に詳しく分析すると近年の特色として病状が重篤化する前の早期段階におけ</p>

	る治療費用が伸びていることがわかった。特定健診開始以降、年々その傾向は強まっております。生活習慣病にかかる医療費節減に繋がっている。
会 長	これらの資料を見ると、健診事業は非常に頑張っており効果もしっかりと表れていると思います。上富良野の受診率は突出していますね。
健康づくり担当課長	各医療機関の先生にもご協力いただき、町の健診を受診するよう勧めてもらっています。
会 長	しかしながら、全国平均でいくと北海道の受診率は下位なのは何故ですか。
健康づくり担当課長	札幌市などは大口なので、それら大都市圏域での受診率の伸び悩みが原因だと分析しています。
会 長	道内の他町村で、上富良野並の受診率のところはあるのですか。
健康づくり担当課長	近隣では和寒町で、受診率も上富良野を若干上回っています。
会 長	早期に治療を行うことで重症化・高医療費化を抑止しているとのことですが、対象者にも主体性のある意識づけがないと結果を出すことは難しいと思います。
健康づくり担当課長	その点では、皆さんは良く頑張られていると思います。
会 長	ほかに何か質問・意見等ありませんか。
各委員	(特に意見なし)
	2 諮問事項
	(1) 平成21年度国民健康保険特別会計補正予算について
及川主査	議案P6～11により説明。
	歳入増額補正分のうち、国保税歳入を1,300万円増額補正しているが、主な要因としては平成20年中における所得の伸び、特に農業所得が大きく上向いたことを受けてのもの。また、歳出増額補正分は事業確定に伴う執行予算額の調整によるものを主としている。歳入財源から歳出増減分を差し引いた残額3,600万円は予備費に充当する。
会 長	内容については、おおよそ事業確定に伴うものということですね。
及川主査	予備費を抜くと300万円弱程度の減額となる補正内容です。
会 長	何か質問・意見等ありませんか。
各委員	(特に意見なし)
	(2) 平成22年度国民健康保険特別会計予算について

及川主査	議案P 1 2～2 0により説明。
	<p>国保税歳入については、昨年の農業所得が一昨年に比べ思わしくないという情報もあり、21年度の決算見込額を勘案の上、当該見込額からおおよそ5%を減じ税収見込を行った。また、前期高齢者交付金は前年度から1,700万円程度の減額予算としているが、前々年度実績に基づき算出交付されることとされており、昨年度の交付根拠となった平成19年度は医療費が大きく伸びた年であり、今年度交付の根拠となる平成20年度は対前年で医療費が減少したことによるもの。</p>
	<p>22年度保険給付費は対前年度より当初予算ベースで3%程度伸びているが、22年度に予定されている0.19%の診療報酬プラス改定や本町の前期高齢者加入率が全国平均に比べおおよそ22%程度高いなどの要素を加味し、21年度決算見込額をベースに1%程附加することで新年度予算を組み立てた。</p>
	<p>なお財政調整基金については、新年度予算において2,600万円の支消を計画しており、この取り崩しにより22年度末基金残額が127,474円となる見込みで、次年度をもっていよいよ基金が底をつく状況を迎える。</p>
町民生活課長	<p>付け加えて説明しますと、国保特別会計はまず歳出にかかる必要額ありきの予算内容であります。というのは、歳出の予算をまずは組み立ててから保険税や国庫・道支出金、共同事業拠出金等歳入の予測をし、それでも不足が生じる部分について基金を支消することで賄っている仕組みになっております。一時期1億5,000万円を越す基金を保有していた時代もありましたが、15年度に国保税の増額改定を行って以来、また22年度も増額改定は行いませんので8年もの間、税率を上げずに基金を支消しながら国保運営を行ってまいりました。まだ暫定的なレベルの話になりますが、21年度会計の翌年度繰越金額も現状では不確定なこともあり、23年度に向けてはいよいよ税率改正の協議を進めていくことになろうかと思っています。また、私の手元に平成20年度の一人あたり国保税負担額の統計がございますが、広域連合も含めた北海道173保険者のうち、上富良野町は134位であり、このことは一人あたりの負担額が全道平均よりも低く抑えられており、医療費負担に関しても全道平均より抑制されている表れであるといえます。先程、健康づくり担当課長からも説明がありましたが、特定健診の受診率が本町は70%を超えている状況にあり、医療費を削減とまでは言いませんが抑制する努力をこれまで続けてきており、成果が8年間、保険税を上げずに持ちこたえられたことに繋がったと実感しております。同様の事例は過去にはありませんし、</p>

